

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	はあとふるあたごグループホーム新津
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	新潟市秋葉区萩野町2番26号
記入者名 (管理者)	渡邊 やよひ
記入日	平成 21 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人では「人を一番大切にします」という理念を掲げ、事業所独自では「住み慣れた地域の中でその一員として、その人がその人らしく継続した生活が送れるように、お一人おひとりの思いを大切に温かな暮らしを支えていきます」と地域の中での生活を意識して理念を各フロアに掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、管理者職員は理念と目標、そして職員としての心得を唱和し、職員同士確認し合い、その意味を再認識、再確認して、日々の業務に実践できるよう取り組み、心に刻んで業務に携わっている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関には当法人の理念「人を一番大切にします」を掲げ、各フロアには地域性を含んだ事業所独自の理念を掲げ、ホームページや月刊誌の配布、催し物などのお知らせなど、多くの関わりをもって、地域への浸透を図っている。	今後は地域の回覧板なども利用し、行事のお知らせをする事でより一層グループホームの存在や取り組みを知って頂き、気軽に足を運んで頂ける環境づくりをしていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	普段のあいさつは勿論、朝の水やりや散歩時には隣近所の人たちと自然に挨拶や声掛けができ、行事をお伝えしたりお茶のみに誘ったりしている。	今後も地域の方々がホームに立ち寄りやすい場としての環境づくりに努めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の催事や他施設の行事などに積極的に参加、又ホームの行事などにも地域の方の参加もしてもらっている。又ボランティアの来訪も定期的、または不定期にとお願いしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	職員が他施設への折り紙指導に行ったり、また事業所の中で「グループホームってどんな所」などアピールする機会を持ち地域の方の参加、呼びかけをしている。		地域の取り組み「見守りネット」に参加協力をしていく。他にもできることには積極的に参加し活動アップを図る。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員会議で自己評価及び外部評価は事業所を振り返る意味で重要であることの理解を共有し全職員で取組み、改善点など話し合い、具体的行動に移している。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2カ月に1回地域の包括支援センター、町内会長、家族会などの参加で実施し、事業所の近況、問題点、事故報告、ヒヤリハット報告などし、参加者から意見を頂いたりして改善策を講じている。また地域の情報や予定など情報収集につとめサービスの向上に努めている。		今後は行政側からの参加も頂き、行政側の取り組みや指導など頂けるように参加の了承を得たところである。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	毎月月刊誌を届けたり、制度に関する事を教えて頂いたり、行政サイドの取り組みを聞いたりして連携を取っている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在対象となる利用者はいないが、今後の事も考慮し職員全員で学ぶ機会を設けたい。		外部研修、内部研修など積極的に参加し今後に備える。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職業倫理に関する指導の基、職員は意識と関心をもってお互いに「言葉」や「態度」に注意を払い、いつでも注意し合える環境づくりに努めている。		職員のストレス状況の把握に努め、法人として定期的にメンタルヘルスの研修制も取り入れたり相談日も設けたりして予防に努めている。また高齢者虐待に関する研修には随時職員の参加を促がしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分な時間をつくり、ご家族に口頭で説明、又利用者、家族の思い、願い求めている事など聴く事で安心し、理解と納得のいくよう対応している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の関わりの中で不満や要望など無いか利用者が話し易い雰囲気づくりに努め、何気ない会話の中に不満や要望などがあつたときは直ぐに改善策を講じている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2カ月に1回利用者の写真や小遣い帳のコピーや推進委員会での議事録など送る際、近況をお手紙にしてご家族が安心できるようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時管理者、職員は家族とできるだけ話す時間を設け、意見を聴くようにしている。また玄関には意見箱を設置、苦情窓口も掲示している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>隔月で3グループホームの管理者と合同会議、3ヵ月に1回は運営者と管理者会議を実施、又毎月事業所では職員会議、ユニット会議を実施する事で問題点や改善点など話し合いの場を設けて、より良い運営が図られるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個人の要望に添えるよう希望を聞きいれたり、緊急時にはお互いが助け合い、勤務調整を図りお客様に不利益とならないよう配慮している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できる限り異動や離職がないように配慮をしているが、やむを得ず異動や離職者がでた場合、会社の指針である「サービスの水準化」を基本に利用者へのダメージがないよう努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社で外部研修、社内研修を計画的に多く取り入れ専門性の向上を図っている。また重度化に対応できるよう介護技術等も新しい方法を指導伝達している。</p>		<p>職員がどのような研修を希望しているのか聞き取り、平等に研修ができるよう計画をしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームとの相互交流をはかり、お互いの学ぶ場としている。又他同業者との1日研修の受け入れもしている。</p>		<p>職員配置の関係から少しの間、交流が途絶えたが、まだ体験していない職員もいるため、今後も相互の交流を図っていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は専門の講師を招き、定期的にメンタルヘルスの研修、またはカウンセリングの日を設けて職員のストレス軽減、予防に努めている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は定期的に事業所を訪問、状況把握に努めている。又その際職員に労いの言葉かけや要望等を聞いたり、また全ての職員に誕生日には自筆のメッセージを持参して職員が意欲を持って働けるよう努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用にあたり必ず、利用者と向き合い心身両面の思いに傾聴し受け止めるようにしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期には見学や相談を受け入れ、家族の思いに十分耳を傾け親身に対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との対話から、どのようなサービスが最もふさわしいのか、場合によっては他の事業所への紹介や問い合わせなどの支援もする。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	全ての職員と管理者は「ようこそ」の気持ちで利用者が不安なく過ごせる雰囲気づくりで迎え入れ、早く環境に慣れて頂く工夫をしている。時には家族の参加のお願いもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が自分らしく過ごすことが出来るよう、昔から慣れ親しんできた事を実践する場を提供し、その中で職員も学び、互いに支え合う関係づくりを築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族の支えが何より一番の力、家族に出来ること、出来ない事を見極めて、共に本人を支え合う関係性を築いている。又毎月の催し物のお知らせをして、家族が足を運び共に楽しみを共有し家族と共に過ごす時間をつくり、家族との関係性に繋げている。		家族がホームに気軽に訪問できるよう働きかけをしているが、まだ十分とはいえない為、今後も引き続きさまざまな働きかけをしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来られた時は、家族の関わりや、日々の様子や状況、又は家族の要望など、随時聞くなどして密にコミュニケーションを図ることで、より良い関係性づくりに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからの誘いや電話で、馴染みの関係の人や、友人などが訪問しやすいように働きかけたり、また家族に近隣の親しかった人なども気軽に誘ってくれるように働きかけをしたりして、関係性が途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お客様が孤立することのないように、職員が中に入りコミュニケーションを図っている。常にお客様同士の関係に目配りして、それぞれが、関わりたい人と関わりができるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院の長期化により退居となった人の場合においても、できるだけ面会をし、家族や本人が困っていないか相談に応じ関係が継続できるように関わっている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しアセスメントしている。本人の歩んできた「物語」を大切にし、いつでもどこでも、その人らしさの発揮ができるよう情報収集につとめている。		今後も更にセンター方式の充実とアセスメントを活かしたケアに力を入れる。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人家族からの細かな情報は勿論のこと、ホームでの暮らしの中での新たな発見や気付きなど記録し、その情報を職員同志共有する事で、より良い暮らしの提供に努める。		センター方式シート、気づきシートの活用のために観察力、洞察力を養う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の身体状況のチェック、「いつもと違う…」僅かなサインを見逃さない観察力で身体レベルの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヵ月1回カンファレンスを実施し家族、本人の要望や可能性を踏まえて、ユニット会議で検討会を開催、本人本位のプラン作成の為に意見交換をしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎のプラン見直しと3ヵ月毎の評価を実施、急な変化等によりプラン実施が不可能となった場合は、家族に説明、同意を得てプランの変更をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、エピソードなど、全ての情報は個別の生活記録に記載し、職員は情報の共有を図っている。また、それ等、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の思いを大切に要望があれば、外出、外泊も自由で、又希望があれば、家族がホームに泊まったり、食事の提供もしている。		家族の協力も得ながらできれば幅広い柔軟な対応をして行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	半年に1回消防署の協力を得ながら避難訓練の実施をしたり、中学生の体験学習の受け入れや、定期的に、又は不定期にとボランティアさんの協力を得ている。		より一層、地域との関わりを深め、一方的に助けて頂くだけでなくグループホームで出来ることは協力して行きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在そのような支援を必要としている利用者はいないが、もっと、本人にとって、より良い環境と適切な所があれば、他事業所のケアマネやサービス事業者と話し合い、本人にとって一番良い選択ができるよう支援する。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が運営推進委員会に参加し、その中で権利、擁護に関する情報交換を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望で入居前からの、馴染みの掛かり付け医が希望の場合は家族が付き添い受診をし、その他の利用者については協力医院の紹介と説明をし同意を得て毎月1回職員による受診介助をしている。必要に応じ往診もあり。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の医師により必要時、専門医のいる医療機関に紹介状の用意をして連携をとっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の看護職員が日常の健康管理、内服薬の管理、そして利用者の日々の様子観察から必要時いつでも相談、助言を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院となった場合、時々訪問して病院側から病状の経過や退院の見通しなど、情報の交換をし、本人が安心して加療できるよう支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会や推進委員会などで利用者の重度化について話し合いを進めている。夜間の往診など協力医院へのお願いなど検討したい。現在は緊急対応マニュアルに従って対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のあり方について、家族と話し合いを設けているが、事業所として、出来ること、出来ないことを明らかにし、家族の意思を受け入れながら対応していく。急変時は医療機関との連携で対応する。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化によるダメージを考慮し、十分な情報の交換をしている。予測される問題点などについても伝え、有効な関わり方など助言したりして不足のないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧かつ親しみある言葉かけで対応し、プライバシーに配慮した対応をしている。日々の記録においては第三者の目の触れないところで取り扱っている。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの思いを尊重し、自己主張、自己決定がし易いよう、雰囲気づくりに努めている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の支援の徹底を図っている。急がずに本人の生活のペースを崩さないよう、その人らしい暮らしの継続ができるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の馴染みの美容室を利用するひと、要望で訪問理容を依頼する人など、それぞれ個別性で対応している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好(好きな物、苦手な物)リストを作成し、満足した食事ができるよう個別対応し、食への意欲を引き出すようにしていると共に準備から片付けまで職員と共に参加している。		嗜好の変化がないか随時アセスメントしていく。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望されるお客様にはビールやつまみを用意して満足が得られるようにしている。又毎日の献立にも本人の嗜好を取り入れている。タバコも希望時、職員管理のもとで用意している。		特別メニューの日など設けて季節の旬を味わってもらったり、昔懐かしい食べ物の用意など、もっと、取り入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別の対応を職員全員が共有している。便意、尿意を尊重し安易なパットやオムツ使用はせず、本人の出来る事を優先にあらゆる対応方法を試みて心地よい排泄援助を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間が業務の都合、職員の都合もあったりする為、できるだけ利用者を選択してもらうようにしている。希望で毎日の人もあり、その他は一日おきに対応して、入浴時間には「心地よい」を基本に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望、又は体調に応じ、臨機応変に休息や昼寝ができるよう言葉かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に食事準備や縫物、掃除や畑仕事など、役割をもって頂いたり、得意とする事や趣味など、生きがいや張り合いに繋がるよう心掛けている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時や近所の喫茶店に行った時など、できるだけ本人に支払いをしてもらうようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物には利用者が交代で同行したり、天候をみて日常的に散歩や、近くの公園に足を運んだり、知人宅に出かけたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の一環として外食やお花見、季節ごとに行楽を楽しんだり、地域の催し物に随時参加し活動する機会をつくらせている。		これからも積極的に地域との関わりを多くし関わりを深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は勿論のこと、利用者宛てに荷物が届いたときは電話で話していただいている。又本人自筆の手紙を書いた時は郵送やFAXなども活用している。年賀状は職員が関わりながら、できるだけ本人に参加してもらい思い思いの絵を描いて家族に宛てたりしている。		家族に安心して頂くためにも希望を聞きながら、今後も実施していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月、家族に行事のお知らせをする事で、いつでも足を運び易いように呼びかけをしている。又来訪された時は、接待をして「もてなし」をする。また近隣の馴染みの関係の人などにも声を掛けホームに訪れる機会を作っている。		いろんな対応をしながら、これからも家族や馴染みの人の関心が向く、魅力あるホームづくりを工夫して行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いケアの重要性を知る事で全くしてない。夜間帯、転倒の危険性のある利用者には、掛物に鈴をつけて対応している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の施錠以外はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録等は見守りの目の行き届く範囲でし、離れる時は必ず他職員とバトンタッチし、いつでも、さりげなく所在確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる針やハサミ、包丁などは数を確認して保管管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	環境点検シートで危険な物や箇所があれば、直ぐ修理や点検をして環境改善に努めている。又ヒヤリハットや事故の発生時は即原因究明と今後の対策等講じ、全職員の意識統一と改善を図り、再発防止に努めている。		今までの事故やヒヤリハットなどからアセスメントして重大事故にならないよう随時検討を重ねる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	半年に1回救命訓練の実施や、緊急時の吸引の仕方など慌てる事のないよう訓練をしている。		救急救命に関する事は定期的の実施して緊急時に備えていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内の避難訓練に参加したり、事業所では半年に1回消防署の指導のもとで昼夜を想定した訓練を実施し問題点を探っている。		今後も利用者の安全を第一に不足の事態を想定して訓練をし、地域の協力が得られるよう働きかけをする。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の方から離設時の対策として、部屋に鍵の設置や、衣服に名前を付けてはなどの提案があるが、それらは抑制に繋がる事で、自由で快適な暮らしの提供を掲げる事業所の思いからはかけ離れた対策となる為、職員間の徹底した連携で見守りの強化をしようという事で、事業所の取り組みを伝え家族の理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の健康チェックの他に「いつもと違う…」様子の変化に気づいた時は、即職員間で情報の共有を図り、必要に応じ受診をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルやカーデックスに挟んであり、いつでも、誰でも一目で確認できるようにしている。又内服の確認は2人以上の目で毎回確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の献立には乳製品を取り入れ、水分を多く取るようにしたり、毎日のリハビリ体操に大腸の動きを活発にするような動きを取り入れるなど活動アップを図ったりと、なるべく薬に頼らない工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医師による口腔ケアの重要性について(歯の健康が全身に影響する)、利用者と共に講習を受け、個々に応じたケアの実施をしている。		口腔体操を今後も積極的に取り入れていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好(好きな物、苦手な物)リストを作成し、満足した食事ができるよう個別対応し、食への意欲を引き出すようにしていると共に準備から片付けまで職員と共に参加している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルの作成をしている。また、いざと言う時に即対応ができるように、必要物品を手の届く位置に配置し、素早い対応をする事で拡大防止に努めている。また職員も「媒体にならない、持ち込まない」を合言葉に注意をはらっている。また感染症に関する情報は随時伝えている。		高齢者にとって感染拡大が命に関わる重要な事として職員全員が緊張感をもって従事することを共通意識としていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買い物をしている事で新鮮であり、買い込みをしないようにしている。まな板や包丁は毎日消毒し、生ものの肉や魚の調理の時は牛乳パックを使用し使い捨てをするなどして衛生管理に工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはプランターや花壇などを設け一般家庭と変わらない、雰囲気づくりを心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにその季節を感じられる装飾品を工夫している。台所用品、洗濯物など利用者の目にも入る位置で常日頃の生活感が感じられるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の意見を取り入れながら、時々模様替えなどしてソファやコタツ、畳など好きな場所でそれぞれ思い思いに過ごせる空間の提供ができています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴れ親しんできた物、愛着のある物など身の回りの大切なものがあることで安心して継続した生活が送れるように自由に持参している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気が淀まないよう定時の換気をしたりして加湿に気を配っているがそれでも湿度が上がらない時は霧吹きなどして湿度管理をしている。		夜間等、各居室の洗面台やバケツ等に水を張って設置したり濡れタオルを置いたりして工夫をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には腰を下ろして履物がはけるように長椅子の設置をしており、また必要箇所には手すりがあり、利用者一人ひとりの身体機能を活かして、出来るだけ安全に生活が送れるよう工夫をしている。利用者の身体状況の変化もある為、それらに対応できるよう随時手すりの位置や場所も追加したり変えたりしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には一人ひとり違うのれんがあり、またそれぞれの似顔絵や写真などで混乱しないようしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの外には利用者による野菜作りを楽しむ畑や花壇があり、正面玄関にはプランター、道路側にも花壇や樹木があり、利用者が手入れをして楽しんでいる。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)